

1 学期終業式・「現在」「過去」未来」

2021・7・19 校長 重枝一郎

1 学期が終わりました。それぞれ成長実感をもてていたらよしとしていいと思います。私を感じてほしい成長実感とは二つあります。一つは「何か一つでも新しいことにチャレンジし、新しい気付きを得ることができたか」もう一つは「何でもいいので仲間のためになることをしたか」です。

私はこの4月に本校にきて、成長実感を本校の先生方のおかげでもつことができました。その中で、あらためて実感できたことがあります。それは、「よい言葉が、よい人間関係を育む」ということです。生徒と教員、生徒同士、教員同士、保護者と教員など、どのような立場であっても、両者の関係は、言葉をはじめとするコミュニケーションがあって構築されるものです。肯定的な言葉は、相手を元気にし、次のコミュニケーションを生みます。否定的であれば、相手を傷つけ、相手の心を閉じてしまいます。特に私のように来たばかりの者に対して、本校の先生方には、常に助かるコミュニケーションをしていただきました。私はその感謝を、生徒のみなさんをはじめとする女学院に関わる多くの人たちに還元していきたいと思っています。本当にありがとうございます。先生方、これからもよろしくお願いします。

コミュニケーション＝感情＋意味→信頼関係

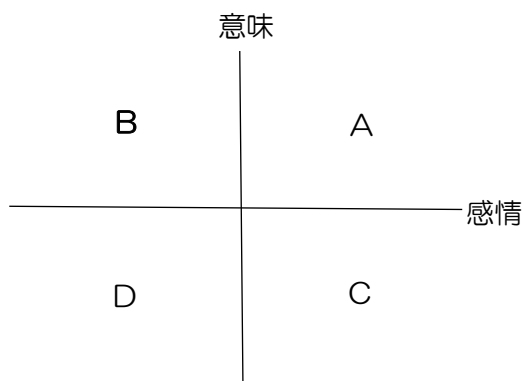
今、話したコミュニケーションのことですが、コミュニケーションの「Co」＝「together・with」の意味があります。ラテン語：communicatio に由来しており、「分かち合うこと」を意味しています。では、何を分かち合うのでしょうか？それは、「意味」と「感情」です。

学校教育で育成するコミュニケーション能力とは、端的に言うと、感情と意味を分かち合うことで、信頼関係を築いていく能力のことなのです。

単なる知識、情報のやりとりではなく、感情を伝え合い、分かち合うことが、コミュニケーションの大きなねらいの一つなのです。

社会に出てからも、一見、情報伝達だけをしているような場において、感情面に気を配っているかないかで、結果に違いが出るものです。人間は感情で動くものです。情報交換をしているときでも、同時に感情面での信頼関係を培うことが、とても大切なことなのです。

コミュニケーション座標軸



A：意味と感情の両方をやりとりする（学校教育）

B：感情のやりとりはないが、情報は交換される（事務連絡、仕事）

C：主に感情をやりとりする（恋愛、恋人）

D：意味も感情もやりとりできていない（戦争、崩壊）

※学校教育では、Aのコミュニケーションをめざす

つまり、学校教育で育成すべきコミュニケーション力とは、

まず、「他人を思いやる心」

次に、「相手の意思や感情を的確に理解する力」

さらには、「自分の考えを相手に伝える論理力」

理想は、「双方の考えから新しい意味が生じるようなクリエイティブな対話」です。

コミュニケーションは、その相互作用の結果として、自分の心の状態を伝えるだけでなく、他者から受けとった情報から、相手の心を読み取ったり共感したりすることができます。それが、他者理解であり、他者受容です。

例えば、誰かが「哀しい」と言ったとき、聞き手は自分の体験に即して、その「哀しみ」を想像します。相手の「哀しみ」をわかろうとすることが「共感」であり、共感が積み重ねられるほどに、人間関係は深くなっていきます。人間関係はコミュニケーションの蓄積なのです。だから学校では、コミュニケーションを通してお互いが「共感」できる場を、なるべく多く経験し、何回も身体を通して学んでほしいのです。

理想的なコミュニケーションは、他者と対話することで新たな気づき生まれ、霧が晴れたようなスッキリ感とワクワク感を味わえるものです。自分ひとりでは思いつくことができない新しい意味が生じることが、チームに必要なコミュニケーションなのです。

さて、話を戻しますが、私たちは「今・現在」「これまで・過去」「これから・未来」を生きています。

私は、「今・現在」を生きるということは「これから・未来」の体力をつけていると思っています。

「これまで・過去」を生きたということは、よくなかったことを「これから・未来」に持ち越さないために改善していると考えています。

「これから・未来」を生きるということは、「今・現在」と「これまで・過去」で培った体力を使い、答えのない中で、失敗をしながらチャレンジを続けることだと考えています。

私は、この1学期終業式にあたり、この学院全体で「現在・過去・未来」をポジティブに生きる空気感をみなさんと一体感をもってつくっていきたいと思っています。

そこで、みなさんのすべきことを言います。

みなさんのすべきことは、仲間とともにまずはやってみる、そして失敗をし、改善を重ねながら前に進んでいくこと、動き続けていくことです。

何もしないで迎える未来ではなく、成長したいという思いをもち、情熱をもって迎える未来は、必ず見える景色が違うからです。

みんなで幸せな未来をつくっていきましょう。

最後に、このようなチャレンジが続けられるのは、いろんな仲間のおかげであることを忘れてはならないと思います。

最後の最後にあらためて言います。

「自分よし 相手よし みんなよし」

以上で学校長の話が終わります。